

ストックガード[®]5

牛伝染性鼻気管炎 (IBR)、牛ウイルス性下痢-粘膜病 (BVDⅠ型、BVDⅡ型)、
牛のパラインフルエンザ (3型)、牛RSウイルス感染症を予防する混合不活化ワクチン

【製法及び性状】

本剤は、牛伝染性鼻気管炎ウイルス、牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅠ型、牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅡ型、牛パラインフルエンザ3型ウイルス及び牛RSウイルスを牛腎株化継代 (MDBK) 細胞にて培養し不活化した後、これにアジュバントを加えた不活化ワクチンである。

帯桃灰褐色不透明の液体で、異物・異臭を認めず容器毎の性状は均一である。

【成分及び分量】

不活化ワクチン2mL (1頭分) 中

牛伝染性鼻気管炎ウイルス マッカチャー株	1.0 RP以上
牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅠ型 シンガー株	1.0 RP以上
牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅡ型 5912株	1.0 RP以上
牛パラインフルエンザ3型ウイルス ラインガー-SF-4株	1.0 RP以上
牛RSウイルス ダイヤモンド株	1.0 RP以上

(RP:相対力価)

乾燥水酸化アルミニウムゲル (アジュバント)	9.0 mg
サポニン (アジュバント)	1.0 mg
NZアミン (安定剤)	20.0 mg
チメロサル (保存剤)	0.2 mg
硫酸フラジオマイシン (保存剤)	0.06mg
イーグルMEM培養液 (溶剤)	残量

本剤の1RPは含有される抗原の量を相対的にあらわし、用法及び用量に従って牛に注射することによって、追加注射後2週には次の抗体対応を得られる量である。又、1RPのワクチンを用法及び用量に従って注射された牛は、 $10^{6.4-6.8}$ TCID₅₀の強毒株による攻撃試験によって、ワクチンを注射されていない対照群と比較して、明らかな症状の低下を示す。

抗IBRウイルス中和抗体価	:16倍以上
抗BVD・MDウイルスⅠ型中和抗体価	:16倍以上
抗BVD・MDウイルスⅡ型中和抗体価	:16倍以上
抗PI3ウイルス中和抗体価	:16倍以上
抗BRSウイルス中和抗体価	:4倍以上

【効能又は効果】

牛伝染性鼻気管炎、牛ウイルス性下痢-粘膜病、牛のパラインフルエンザ及び牛RSウイルス感染症の予防

【用法及び用量】

2mLを3～5週間隔で2回、筋肉内に注射する。

追加免疫用として本ワクチンを使用する場合には、半年～1年毎に2mLを筋肉内注射する。

【使用上の注意】

【一般的注意】

- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は効能・効果において定められた適応症の予防にのみ使用すること。
- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師の処方せん・指示により使用すること。

【使用者に対する注意】

誤って人に注射した場合にはアジュバントの性状から炎症を起こして腫れや痛みを伴うおそれがあるので、直ちに以下の処置をとること。

- 直ちにワクチンを吸引器具などを用いて誤注射部位から吸い出すこと。
- 誤注射部位に熱感、腫脹又は疼痛がみられる場合には、医師の診察を受けること。この場合、動物用アルミニウム性アジュバントワクチンを誤って注射してしまったこと、本使用説明書に記載されているワクチンの成分を医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチンの成分の特徴

(1) 抗原	人畜共通伝染病の当否	微生物の生死
牛伝染性鼻気管炎ウイルス	否	死
牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅠ型	否	死
牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスⅡ型	否	死
牛パラインフルエンザ3型ウイルス	否	死
牛RSウイルス	否	死

(本ワクチンに含まれる全てのウイルスは不活化されており、又、人に対する病原性はない。)

(2) アジュバント

種類
水酸化アルミニウムゲル サポニン

本ワクチンに関するお問合せは、下記までお願い致します。

共立製薬株式会社 つくば中央研究所
〒300-1252 茨城県稲敷郡基崎町高見原2-9-22
電話：0298-72-3361, FAX：0298-74-1619

【対象動物に対する注意】

1 制限事項

- 本剤の注射前には対象牛の健康状態について検査し、重篤な疾病にかかっていることが明らかなものには注射しないこと。
- 対象動物が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射適否の判断を慎重に行うこと。
 - 発熱・咳又は下痢など临床上異常が認められるもの。
 - 疾病の治療を継続中又は治癒後間がないもの。
 - 交配後間がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
 - 重度の皮膚疾患が認められるもの。
 - 明らかな栄養障害が認められるもの。

2 副反応

- まれに、注射部位の腫脹が1～数日間認められることがある。
- 副反応が認められた場合は、速やかに獣医師の診察を受けるように指導するとともに、副反応に対して適切な処置を行うこと。

3 相互作用

本剤には他の薬剤を加えて使用しないこと。

4 適用上の注意

- 移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので幼若な牛への注射は移行抗体が低下する時期を考慮すること。
- 注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- 注射部位は、70%アルコールで消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- 注射器具 (注射針) は原則として1頭ごとに取り替えること。
- 本剤を同一部位に繰り返して注射しないこと。

【取扱い上の注意】

- よく振り混ぜてから使用すること。
- 有効期間が過ぎたものは使用しないこと。
- 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので、注意すること。
- 使い残りのワクチン及び使用済みのワクチン瓶は適切に処分すること。

【保管上の注意】

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

注意—獣医師の処方せん・指示により使用すること。

【貯法及び有効期間】

- 2～5℃に保存する。
- 製造後1年9か月間 (最終有効年月は外箱及びラベルに表示)。

【包装】

液状不活化ワクチン20mL (10頭分)、100mL (50頭分)



人と動物と環境の共生をになう

共立製薬株式会社

東京都千代田区九段南1-5-10